

▶ 消防団員災害救援ストレス対策研修を実施して ◀

—上川地方支部富良野地区分会 消防団員現地教育訓練—

富良野広域連合占冠消防団

1. はじめに

しむかっぶ
占冠村は、北海道のほぼ中央に位置し、面積の94%が森林であり、森から流れ出す小さな源流がいくつも集まってむかわ鷓川となり、村の中央を悠々と流れています。冬は寒さが厳しく、時にはマイナス30度を下回る朝もあり、毎年数回テレビ局の取材も訪れ、占冠村と陸別町で比較されるテレビ企画もありました。

主な産業は農林業やトマムリゾートを代表とする観光です。いずれも占冠村にある豊かな自然を基盤とする産業で、村のキャッチフレーズは「自然体感しむかっぶ」です。

トマムリゾートでは、全国的にも有名になりました雲海テラスが非常に人気があり、夏の時期になると、日によって様々な表情を見せる雲海を目当てに、全国から多くの観光客が訪れ賑わっております。また、あかいわせいがんきょう赤岩青巖峽ではラフティングやクライミングが盛んに行われています。

豊かな森、美しい川、のどかな農村風景、多様な動植物たち、おいしい農産物、そして何より心を癒してくれる村民のあたたかい笑顔。都会のような便利なものは何もありますが、生きるために本当に必要な豊かさがここにはあります。



雲海テラスからの展望



秋の赤岩青巖峽

2. 占冠消防団の沿革

占冠消防団の歴史は、昭和10年5月に、総数27名によって公設「占冠消防組」が創設されました。昭和14年4月には、「占冠村警防団」に改編され、昭和22年には、自治体消防機関の消防団として「占冠村消防団」に編成替えし、3分団制、団員総数52名となりました。

昭和49年には、旧富良野地区消防組合(1市1町1村～富良野市、南富良野町、占冠村)が発足しましたが、平成21年3月に解散し、新たに富良野広域連合(1市3町1村～富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)が発足、2分団制、団員定数50名となり、現在に至ります。

3. 災害救援ストレス対策研修開催の経緯

近年は災害種別の複雑・多様化に加え、集中豪雨による土砂災害などの事案が発生しており、消防団員がいつなんどき悲惨な災害現場に遭遇し、ストレス障害を発症してしまう可能性があるかもしれないことから、惨事ストレス対策についての教育が必要ではないかと多くの団員から班長以上の幹部団員に提案があり、消防団員等公務災害補償等共済基金に講師派遣を依

頼させていただく運びとなりました。

4. 災害救援ストレス対策研修を実施して

平成27年9月27日(日)に占冠村において、消防庁メンタルサポートチームの中村泰江氏を講師としてお迎えし、「災害救援ストレス対策研修会」を開催しました。

当日は、5市町村80名の富良野広域連合管内消防団員の参加のもと、惨事ストレス対策と題して講演が行われました。

講演では、「一般的な生活ストレスについては、個々のストレス解消方法によって、解決することができることもあるが、惨事ストレスについては、身体的なケア・情緒的なケア・職場でのケアが必要であり、何より家族の理解も必要である。」という話がありました。

参加した消防団員からは、「日常生活からストレスについて考えることが大切であると感じま

した。」「惨事ストレスは、被害者だけでなく、救援者側にも大いに影響することが理解でき、自分が被災者又は救援者になった場合は、どのようにすれば良いのかということを考えさせられるきっかけになりました。」などのように、普段の生活から考えさせられる講演であり、とても分かりやすかったという感想がありました。

5. 今後の取組について

「災害救援ストレス対策研修」は初めての実施でありましたが、有意義なものとなりました。今回の研修で得た知識を各消防団に持ち帰って周知し、今後の消防団員の惨事ストレス対策に役立てていきたいと思えます。

今後も消防団員の公務災害防止のため、安全管理セミナーやS-KYT(消防団危険予知訓練)研修等の公務災害防止事業を継続して実施していきたいと思えます。



研修会の様子